

## 四単位形式舞踊創作の理論と実際(2)

— 作品と評価 —

～平成20年度学生を対象として～

すず き ま り こ  
鈴木万里子

### 1. はじめに

本学は体育の授業時に、表現活動の授業としてダンス、舞踊創作を取り入れている。

初等教育学科における体育(実技)と、人間環境学科での体育Ⅱの授業である。そのねらいは、学生の表現能力の向上と豊かな感性の育成などである。

本年度は、担当している3グループを対象に舞踊創作指導の内容に違いを持たせ、その創作過程での違いを見ることにした。また鑑賞の際、学生は何を評価の基準にしているか、発表後に記述している評価表を基に作品鑑賞能力を見ることとした。そして作品作りをいかに効率よく、楽しく制作させるか、また、学生の作品鑑賞能力は育成されているかの点を明らかにすることが本稿の目的である。それらの結果を基に今後の指導の指針としたい。

### 2. 授業内容

#### 2.1 授業構成

平成20年度では、初等教育学科1回生CDグループ30名(再履修者1名)、EFグループ30名の2グループ、計61名の学生を対象に、体育(実技・講義)の7時限を使って四単位形式創作舞踊制作を行った。また人間環境学科では、1グループ24名(再履修者3名)の学生を対象に、体育Ⅱの授業時に創作活動を行った。7時限目には最終発表を行い、その後作品評価をする。昨年<sup>1)</sup>の結果

き、完成度を高めるために試演会を発表会前に設けた。平成20年度のカリキュラムは表1である。

#### 2.2 授業内容

今年度は、初等教育学科の2グループと人間環境学科1グループに2時限目の指導内容に変化を持たせ、その完成過程での違いを見ることとした。

- ① 講義内容 題材「生活」、題「ラッシュアワー」、形容詞「慌しさ」の説明を板書で行う。
- ② ①に加えて8呼間のM<sup>2</sup>の動きを6名で模範運動を示す。模範運動は教師の創作による。8呼間のリズムパターンを使って6名の学生が示範する。
- ③ ①と②に加え、さらにBフレーズの発展方法を6名で8呼間の運動を示範する。さらにB単位の発展方法を説明し、教師の創作した8呼間の発展させた運動M'を示範する。

①②③は初等教育学科EFグループを対象に、①②は初等教育学科CDグループを対象とした。人間環境学科グループは①のみ提示し、それぞれ授業を進めた。平成20年度舞踊作品の題とモチーフは表2である。

3時間目の進度については、初教EFグループでは、掃除チームが64呼間完成し、掃除逃亡劇、嵐の海チームが32呼間完成し

表1 平成20年度「四単位形式舞踊作品」創作カリキュラム

	指導項目	内容説明	課題実習
1時限目	Rhythmus について Rhythmus と Metrum Rhythmuspattern	リズムとリズムパターン リズムと拍子について 単一リズムと複合リズム	単一創作リズムパターン 二人組 8 呼間 複合リズムパターン創作・発表
2時限目	四単位創作 ABCD 単位 問と答について	題材・題・グループの決定 四単位形式の創作説明 言葉の Motiv から動きの Motiv へ	動きの Motiv 創作 8 呼間動きの Motiv, 8 呼間の発表
3時限目	A 単位創作 空間の使い方	A 単位の説明	創作実習・発表 A 単位 32 呼間 問と答 発表
4時限目	B 単位創作 伴奏音について	B 単位の発展について 伴奏音について説明・制作	創作実習 A 単位から B 単位へ
5時限目	C・D 単位創作	コントラスト(対照)の創作説明	創作実習
6時限目	試演会	発表 修正	
7時限目	発表会	評価について 評価表と評価方法 評価表配布	練習 発表・評価

表2 平成20年度 創作作品一覧

初等教育学科					
CD グループ			EF グループ		
	題	言葉のモチーフ		題	言葉のモチーフ
1	海	大きさ	1	掃除逃亡劇	忙しさ
2	雨	鬱陶しさ	2	お化け屋敷	怖さ
3	平和	尊さ	3	クリスマスの朝	楽しさ
4	満員電車	慌ただしさ	4	嵐の海	荒々しさ
5	愉快な子ども達	楽しさ	5	掃除	楽しさ
6	大恋愛	切なさ	6	青春	楽しさ

人間環境学科		
	題	言葉のモチーフ
1	森林伐採	遅しさ
2	一日	忙しさ
3	花	美しさ
4	不死鳥	美しさ
5	掃除	楽しさ

ていた。CD グループでは、海、平和チームが32呼間完成していた。また雨、クリスマスの朝チームは24呼間完成していた。人間環境グループでは発表できるチームはなかった。

その後、創作に行き詰まりを感じたため、4時間目後半に卒業生の作品<sup>3)</sup>と高等学校ダンス部<sup>4)</sup>群舞の2作品をビデオ鑑賞させた。そこで「先生の求めている舞踊がようやくわ

かった」「もっと早く見せてくれればよかった」という意見が多くあった。我々教師が舞踊を学んだ際には、独自の表現や創造性を妨げるという理由から既成の作品を事前に見ない、見せないということが定説となっていた。そのため、これまでも学生の作品の創作中に、既成の作品を事前に鑑賞させることはしていなかった。しかし現代社会では多種多様なダンスが存在し、またDVDなどの機器の発達によって数限りないダンスを目にする機会がある。その中で表現とは何か、この授業で求められている舞踊は何か、自分たちが踊っているこの内容で正しいのかなど、疑問を持ちつつ創作を進めている学生もいたようである。よって精度の高い作品を鑑賞させることは、創作を進めていく際の拠り所となることがわかった。しかし最初から見せるのではなく、少なくともAフレーズが完成し、自分たちの表現が明確となった時点で参考にするのがよいと思われる。

5時限目に作品を完成させたチームは、EFグループでは6チーム中1チーム(青春)を除いて5チームが完成していた。CDグループでは7チーム中(雨、満員電車、愉快な子ども達)を除いて4チームが完成した。人間環境グループでは5グループ中1チーム(掃除)のみが完成していた。

今年度の学生の運動能力や高校時代までの創作ダンス経験の有無など、学生の潜在的な能力によることもあり、一概には言い切ることにはできないが、結果からより詳しい創作方法の提示を行ったグループが早く完成する傾向が見られた。

本番前の試演会において、他グループの完成度を知り、放課後や早朝練習することによって遅れを取り戻すチームもあった。それは自分たちの作品を他と比較し、客観的に見る能力があったということである。この能力があれば、その後の発表会までに作品を補正することができる。そこには授業時間外で練

習時間を確保すること、メンバーを集合させることなど、物理的な条件も大いに関係してくる。それらの問題を解決し、自分たちの作品をいかに修正するかによって作品の精度が高められ、完成度が増すのである。

### 3. 作品鑑賞と評価

発表会后に各自が記入する評価表は、表3である。舞踊鑑賞するには、作者と鑑賞者との間に共通のコミュニケーションが生まれるということである。舞踊創作は作者が主体であるが、鑑賞することは作品の中に入り込み、作者と同調する内的模倣能力と、その作品の内に感情移入させる観者の鑑賞能力が必要<sup>5)</sup>とされている。そこで発表後、評価表を用いて学生の鑑賞能力を計ることとした。

- 1)動き、2)モチーフ、3)伴奏音、4)練習の

表 3

創作舞踊 評価表

人・初 回生 クラス 番氏名

1	題 ( )				感想
	動き	モチーフ	伴奏音	練習	
2	題 ( )				感想
	動き	モチーフ	伴奏音	練習	
3	題 ( )				感想
	動き	モチーフ	伴奏音	練習	
4	題 ( )				感想
	動き	モチーフ	伴奏音	練習	
5	題 ( )				感想
	動き	モチーフ	伴奏音	練習	
6	題 ( )				感想
	動き	モチーフ	伴奏音	練習	
7	題 ( )				感想
	動き	モチーフ	伴奏音	練習	

4項目をABCDで記入する。また自由に記述するため感想欄を設けた。その結果をA：4点、B：3点、C：2点、D：1点と点数化し、単純集計したものが、表4～6である。

発表会当日の出席者数、初等教育学科CDグループは28名、EFグループは28名、人間環境学科は22名であった。授業終了後回収したため回収率は100%であった。

各グループ、各項目での欠損数は、白紙回答数である。

#### 4. 結果および考察

##### 4.1 グループ評価

鑑賞の際、4要素のうち最も評価の高かった項目は伴奏音であった。これは、初等教育学科では、ピアノ演奏や声楽等を受講しており、音楽に興味があるためと思われたが、人間環境学科でも同様の結果であった。続いて

表4 H20, 初教, CD

題		動き	モチーフ	伴奏音	練習	計
1：海	平均値	3.29	3.61	3.86	2.96	13.71
	計	92	101	108	80	381
	度数	28	28	28	27	111
	標準偏差	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
2：雨	平均値	3.14	3.14	3.14	3.14	3.14
	計	88	87	97	75	347
	度数	28	28	27	28	111
	標準偏差	0.65	0.50	0.64	0.67	2.45
3：平和	平均値	3.39	3.04	3.68	3.36	13.46
	計	95	85	103	94	377
	度数	28	28	28	28	112
	標準偏差	0.69	0.64	0.48	0.68	2.48
4：満員電車	平均値	3.82	3.79	3.71	3.57	14.89
	計	107	106	104	100	417
	度数	28	28	28	28	112
	標準偏差	0.39	0.50	0.53	0.63	2.06
5：愉快的子ども達	平均値	3.36	3.54	3.54	3.25	13.68
	計	94	99	99	91	383
	度数	28	28	28	28	112
	標準偏差	0.68	0.69	0.74	0.65	2.76
6：大恋愛	平均値	3.71	3.82	3.82	3.68	15.04
	計	104	107	107	103	421
	度数	28	28	28	28	112
	標準偏差	0.46	0.39	0.39	0.48	1.72
計	平均値	3.45	3.48	3.70	3.25	13.89
	計	580	585	618	543	2326
	度数	168	168	167	167	670
	標準偏差	0.63	0.62	0.54	0.71	2.50

表5 H20, 初教, EF

題		動き	モチーフ	伴奏音	練習	計
1：掃除逃亡劇	平均値	3.21	3.33	3.42	2.92	12.88
	計	77	80	82	70	309
	度数	24	24	24	24	96
	標準偏差	0.51	0.64	0.65	0.50	2.30
2：お化け屋敷	平均値	3.50	3.75	3.93	3.75	14.93
	計	98	105	110	105	418
	度数	28	28	28	28	112
	標準偏差	0.51	0.44	0.26	0.44	1.65
3：クリスマスの朝	平均値	3.71	3.79	3.82	3.68	15.00
	計	104	106	107	103	420
	度数	28	28	28	28	112
	標準偏差	0.46	0.42	0.39	0.48	1.74
4：嵐の海	平均値	4.00	4.00	4.00	3.86	15.86
	計	112	112	112	108	444
	度数	28	28	28	28	112
	標準偏差	0.00	0.00	0.00	0.45	0.45
5：掃除	平均値	4.00	3.96	3.93	3.70	15.59
	計	108	107	106	100	421
	度数	27	27	27	27	108
	標準偏差	0.00	0.19	0.27	0.54	1.00
6：青春	平均値	3.46	3.46	3.68	3.11	13.71
	計	97	97	103	87	384
	度数	28	28	28	28	112
	標準偏差	0.58	0.58	0.55	0.63	2.33
計	平均値	3.66	3.72	3.80	3.52	14.70
	計	596	607	620	573	2396
	度数	163	163	163	163	652
	標準偏差	0.50	0.49	0.44	0.61	2.04

表6 H20, 人間環境

題		動き	モチーフ	伴奏音	練習	計
1：森林伐採	平均値	3.86	3.77	3.91	3.32	14.86
	計	85	83	86	73	327
	度数	22	22	22	22	88
	標準偏差	0.35	0.43	0.29	0.90	1.97
2：一日	平均値	2.84	3.38	3.38	2.63	12.24
	合計	47	54	54	42	197
	度数	16	16	16	16	64
	標準偏差	0.93	0.89	0.81	0.81	3.44
3：花	平均値	2.19	2.50	2.56	2.25	9.50
	計	35	40	41	36	152
	度数	16	16	16	16	64
	標準偏差	1.05	1.03	1.09	0.86	4.03
4：不死鳥	平均値	3.50	3.86	3.86	3.68	14.89
	計	77	85	85	81	328
	度数	22	22	22	22	88
	標準偏差	0.74	0.35	0.36	0.73	2.18
5：掃除	平均値	3.94	3.94	3.94	4.00	15.82
	計	71	71	71	72	285
	度数	18	18	18	18	72
	標準偏差	0.24	0.24	0.24	0.00	0.73
計	平均値	3.31	3.53	3.56	3.20	13.61
	計	315	333	337	304	1289
	度数	89	89	89	89	356
	標準偏差	0.94	0.80	0.78	0.96	3.48

モチーフ、動き、練習の順であったが、これらも初等教育学科、人間環境学科とも同様の結果であった。

伴奏音が評価の観点として高位を得たのは、鑑賞する際の感情移入を他の項目に比べて最も簡単に行うことができるという理由が考えられる。選択した曲の雰囲気がその踊りに合っているか否かは、常に音楽に囲まれた生活を送っている学生にとって、即、判断可能なことである。感想の欄に「音とダンスが合っている」「リズムとダンスが合っている」などの記述があり、この伴奏音はセンスが良い、この踊りに合っているという感覚的な面で捉えていることがわかる。また、最終発表会の時点で伴奏音の流れ、そして踊りが始まるということは、発表形式で当然のことであり、伴奏音は作品の中に当然含まれていると考えている。よって伴奏音の完成は感情移入をするための要素としても、また評価に際して最も重要な要素であると感じているようである。

モチーフに関しては、創作開始段階において題から派生した形容詞を言葉のモチーフとし、その後、その形容詞を動きのモチーフとして一連の運動を作っているため、モチーフの表現が作品の内容を示すために重要であると捉えており、その結果は評価に表れていると考えられる。

動きは、モチーフを具体化した一連の運動であるので、モチーフと動きは連動しているものと捉えている。そして動きはモチーフに比べて抽象的であるので、このような結果となったと思われる。

練習の項目結果に低い数値が示された原因として内的模倣が挙げられる。作品を観者として見ている自分と、その踊りの中に入り込む自分の存在である。その内的模倣を行う基準は、自分自身である。例えば、ユニゾンの部分は揃っているか、間違っていないかなど、目の前で現象と実際は踊っていないが、自

分の姿と投影しているのである。現実に舞台上で踊っている姿とそれに自分を投影した時の差が、練習の値として現れていると思われる。この結果から見ると学生達は自分たちの作品はもとより、それぞれの作品を練習不足と判断していることになる。自他共に練習度に関して厳しい冷静な目で鑑賞しているようである。

#### 4.2 作品評価

次に各グループの作品ごとに、4要素(動き、モチーフ、伴奏音、練習)をグラフで表した(図1～3)。

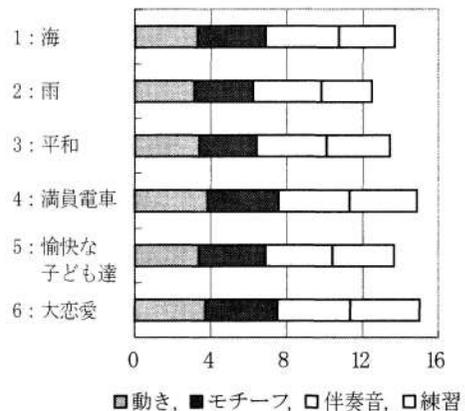


図1 初教 CD グループ

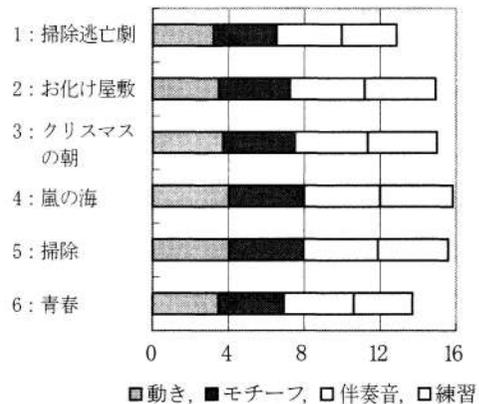
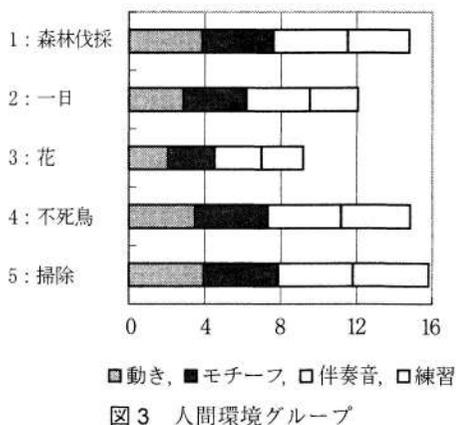


図2 初教 EF グループ



### ■ 初教 CD グループ

- 1: 海 練習不足だったため、波の様子が感じられなかった。「海の表現はされていたが、練習不足の部分も感じた」
- 2: 雨 伴奏音と雨の動きが合っていておもしろい作品であった。しかし、本番では2名欠席し、伴奏音も無かったため、残念な結果となった。個運動<sup>6)</sup>が練られており、作品としておもしろく、教師は欠席者の空間も想定して観てしまう。しかし、学生は目の前の実際を観ており、マイナス部分は認められないとしている。「雨の降っている様子はわかった」「鬱陶しさがもう少し表現されていたらよかった」
- 3: 平和 内容を掘り下げていないので、単なるけんかや仲直りとなっていた。「平和と闘いのシーンを動きで表していた。もう少し尊さが伝わればよかった」
- 4: 満員電車 再履修生と運動を苦手とする1年生との混合チームであった。5週目まで全くできていない状態であったが、早朝や放課後に練習を繰り返し完成した。指導者としては、この学生達の1年間の成果として、精神面や運動能力の面での成長の過程を含め、このグループの作品を最高と評価した。

「リズムパターンがいくつもあり、満員電車の様子がよく表されていた」「よく練習したのだなと思った」、など肯定的な意見が多かったが、学生は「座ったところの運動が練習不足だった」「もう少しハキハキと踊れたらよかった」など、一拍遅れで踊っていた一人の学生に冷静に作品のみで判断していた。

- 5: 愉快的な子ども達 毎週題を変え、進度が最も遅かった。抽象的な題で、表現したい内容が明確ではなかったが、楽しさのモチーフは理解できた。「楽しそうに踊っていたが、変化がなかった」
- 6: 大恋愛 本番前の試演会では、クラシック曲を伴奏音としていたので、一拍が非常に長く単調に感じた。音を作り直して発表したところ、高い評価を得た。「ゆっくりとしたテンポで踊るのは難しいと言っていた先生の言葉を痛感したが、動きに物足りなさを感じた」

### ■ 初教 EF グループ

- 1: 掃除逃亡劇 題とモチーフが合っていない。また未完成であったため再度発表することとなった。「前回と伴奏音を変えたのでよかった」「掃除か逃亡かがよくわからない」
- 2: お化け屋敷 時折恐ろしいという運動が出てくるが、内容が乏しい。前回にはなかった隊形変化が加えられていた。「音楽と動きが合っていて怖さを感じた」
- 3: クリスマスの朝 楽しさという雰囲気は表現できているが、クリスマスという意図が示されていない。「楽しさのドキドキ感が伝わった気がする」
- 4: 嵐の海 メンバーの協力態勢もよく、早くから完成しており、個運動もよく練られていた。「みんなで意見を出し

合って納得のいくように作ることができた」「この班は練習も計画的に進められていて、とてもよい仕上がりと考えた」

- 5: 掃除 Cフレーズの部分で一人がゴミになりフワフワ飛んでいくなど、動きに創意工夫が見られた。「群に分かれたので、空間に広がりがあった」
- 6: 青春 Aフレーズの動きはおもしろいが、運動の繋がりが悪いと印象が弱くなっている。「おもしろさはあまり伝わらなかった」「けんかをしたり恋をしたりと青春の楽しさが伝わってきた」

#### ■ 人間環境グループ

- 1: 森林伐採 カノン形式が組み込まれ、動きも独創的でおもしろい作品だった。このグループは前日に完成したため、自分たちで練習不足を自覚し、C評価を付けていた。「リズムパターンと伴奏音がよく合っていた」「練習をもっと初めからやっていたらもっと良い踊りになっていたと思う」
- 2: 一日 完成していたが、練習不足で最後まで踊れず不合格とした。「もっと練習したら絶対良い物になる」
- 3: 花 未完成であったので、最後まで発表できず不合格とした。「リズムパターンが少ない」「もう少し複雑にしたらよいと思う」
- 4: 不死鳥 リズムパターンの変化がないため単調に感じた。人数が多いため空間の広がりを感じとれた。「リズムパターンをもう少し工夫したほうがよい。しかしモチーフは出ている」「手の動きで不死鳥が感じられた」
- 5: 掃除 早くから完成していた。安心して観ることができた。「音の編集もできていたので、ダンスと音が良く合っていた」

以上、指導者の感想と学生の1、2感想を抜粋した。この学生の結果は、初等教育学科CDグループの「満員電車」以外は、指導者の評価と合致するものであった。

以上のことから、創作舞踊の表現を早く理解させるためには、作品の形が見えてきた頃、高度な創作作品を見せたほうが完成に早く到達することがわかった。また、グループ内での協調性も完成に近づくための重要な要素であった。

個人評価について指導者は、個々の学生の授業内での成長の過程も考慮して評価している。しかし学生はその場面場面を、指導者以上に冷静で厳しい目で鑑賞し、評価していた。

伴奏音は、題とモチーフから判断し、その作品の雰囲気を感じるための重要な要素としていることがわかった。また、練習項目は内的模倣を行う際、自分だったらどのように踊れるだろうか、リズムパターンが複雑で、自分はその作品が踊れるだろうか、常に自分の能力を基準としている。特に完成度の低いチームでは憧れと羨望の眼差しで鑑賞していた。完成段階が早かったチームにおいては、その傾向は逆であった。例えば、初教EFグループの嵐の海チームは、動き、モチーフ、伴奏音の3項目ともに平均値4であるのに、練習項目は3.86であった。評価表を調べると、チームメンバーが自ら低い評価を付けていた。自分たちの踊りに満足しなかった結果である。

人間環境グループの掃除チームも早くから完成しており、練習も空き時間や放課後行っており、完成度は高かった。しかし、このチームは全員4項目とも、白紙で提出していた。両チームとも客観的に自分たちの作品を評価できる能力はあると思われる。特に完成度が高ければ高い学生ほど、さらに完璧を求める表れかも知れない。しかし自分たちの作品に自信を持ち、評価に臨むことを期待するものである。

## 5. 終わりに

学生達は、公正で正しい判断力と、良い作品には良いとする鑑賞力を持っていることがわかった。邦は、「舞踊鑑賞の際に大切なことは、心を開き作品に対して積極的な態度をとる。それはすなわち肯定的な態度である。』<sup>7)</sup>と言っている。発表時に鑑賞し、評価することは、演技者と観者の間に友好的なコミュニケーション場が形成されることであり、お互いの作品を認め合う場ともなる。

折しも、平成 21 年度中学校体育のカリキュラムにおいて、男子生徒にも創作ダンスが課せられることとなった。表現の必要性が問われた結果の現れと思われる。

この流れの中、表現活動の重要性を説きながら、楽しく表現できる授業を行っていきたい。

### 引用文献

- 1) 鈴木万里子：四単位形式の理論と実際，大阪信愛女学院短期大学紀要，第42集，4頁（2008）
- 2) 同上，4頁
- 3) H18年度EFグループ作品：「ダイエット効果」（2006）
- 4) ではたしょうこダンスアンサンブル公演 大阪府立布施高校ダンス部作品：「毒変化」（2000）
- 5) 邦 正美：舞踊，体育の科学社，155頁（1954）
- 6) 個運動：舞踊創作に必要な空間運動，個運動と空間運動がある，空間運動は実際に動き回る空間を言い，個運動とは個人，または群で身体を使って表現する空間運動を言う。
- 7) 邦 正美：舞踊の美学 富山房，241頁（1974）

### 参考文献

- 1) 石川博子編著：創作舞踊の理論と実際 黎明書房(1992)
- 2) 加藤禮子，高柳美津，杉浦とく：舞踊としての動きのリズム，明治図書出版(1978)
- 3) 邦 正美：舞踊創作と舞踊演出，論創社（1989）

（受理 2009年2月27日）